



初めての「中山湿原」は濃霧の中でした



濃霧から小雨、時おり大粒の雨



朝霧に包まれた幻想的な景色

**初めて訪れた「中山湿原」は雨霧の中でした。**

全体が朝霧に包まれて幻想的な景色がありました。「湿原入り口近くでは薄緑のホソバノキソチドリが迎えてくれ、湿地を気にしながら進むとエゾカンゾウの黄色の笑顔があり、ノハナショウブは我聞せずと凛とした立姿、林影の下には梵々と咲くピンクのペニバナイチヤクソウが20本位の群生があり、本来は風に揺れて楽し気なワタスゲは雨にぬれうっむいたままの昔の乙女でした。晴天とは異なる風情がありこれもまた良と感じて湿原を後にしました。小林会長は平成5年「ここで熊に出合った経験がある」と熊よりも大きな声を出しながら私たちを誘導して下さった姿は印象深いものでした。湿原から会長の車に同乗者7名と他11名は40分歩き待ち合わせ場所へ。道の両側にはトリアシショウマ、オニシモツケが咲き乱れて私たちに列れを惜しんでくれました。

佐々木 昭子(西区)

皆さんからのお便り♪

若浜 一恵(南区)

連日猛暑が続いた此の日は濃霧から小雨、時おり大粒の雨、幻想的な湿原も良いものだ。まだ早いのかエゾカンゾウはわずかにひっそり咲くアヤメ、雨にゆれるワタスゲ、愛らしいペニバナイチヤクソウの群生。ここは茂みをかきわけて以前にも来たことがあったが、その時は途中の道ももっと広々とした山道でこんなに笹やオニシモツケが繁っていなかつたように思う。きっとそれは誰かの努力で笹刈りがされたのではなからうか。と有難さを感じた。別れ道、送電線のところまで車で送り届けていただき会長には感謝。今日のような天気の日にはオヤジさん(熊)の大好きな日、私たちの存在をアピールして大声を上げドキドキしながら久しぶりの湿原歩きを楽しみました。

濃霧の中のホソバノキソチドリやヤチシンコが今も目に浮かびます。



ノハナショウブ



ペニバナイチヤクソウ



オニシモツケ



**イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン**

行天 純子(清田区)

イオン北海道・桑園店において、毎月11日店頭活動が行われています。黄色いレシート総額の1割が、地域のボランティア活動の助成金として給付されます。

平成29年度も新しいメンバーのお手伝いをいただき店頭活動をしています。4月16日の助成金贈呈式ではいろいろな団体が出席し、活動内容とイオン助成金の活用について発表しました。

ボランティア活動の場は違いますが、皆さんの熱心な活動に奮起しました。

自分の木 選定指導

6月5日(月)



札幌市立駒岡小学校では森林環境教育の一つのプログラムとして、毎年新1年生を対象に学校林・こまおかの森で「自分の木」を選び、木の名前と自分の名前をつけて6年間観察を続けます。自分の木カードには木の太さ、手で触った木肌の感触、四季の変化、係る昆虫等観察を記録して森や木に親しみ、木の成長を見守るものです。

私たちは学校林を活用した森林環境教育を応援しています。



もりのとも通信

2017年度の年間行事予定表を掲載した「もりのとも通信」をエルプラザやイオン桑園店内さっぽろサポートほっと基金のチラシスタンドに設置しました



コースターづくり

藤の沢小学校学校林「小鳥の村」で5年生26名がコースターづくりを体験しました。のこぎりを使って木を切るコツを覚える体験学習です。



10月21日(火)

札幌市資料館で開かれた「一人一仏展」一彫り一彫り丹念に彫り進めた仏像がそろい、訪れた人の心を和ませている。会員高田繁さんがコツコツとクスノキやカツラなどを彫刻刀で彫って完成させた観音菩薩立像(九面観音)や天燈鬼・竜燈鬼が並ぶ、その見事さに魅了させられた。

心とお仏像彫刻



「何かと忙しい世の中だからこそ仏像を彫っている時間がたつのも忘れて安らぎを感じる」と高田さんは仏像彫刻の魅力を話してくれた。木を使い仏像を彫る。完成まで数か月はかかるという。人生いろいろ、趣味もいろいろ。それにしてもお見事に尽きる。

道具整備

機械整備

鋸刃研磨

10月31日(火)

今年一年間の行事終了にともない、ボランティア行事の度に使用してきたカマやナタ、チェーンソー、刈払機の点検整備作業を6名が参加して会事務所前で行いました。チェーンソーの分解掃除では取り換える刃の向きやネジ絞めに戸惑いながらも午前中2時間ほどで終了しました。お疲れさまでした。



フォトアルバム

思い出の写真集

今年一年間実施された行事の活動記録写真の数々をアルバムにしてホームページの「フォトアルバム」で公開しています。流れるBGMと一緒に楽しみたい。あの日のあの時の感動がよみがえります。



森林遊び フォトアルバム 検索